

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	建築史学特論A (Theory of Architectural History A)		
ナンバリングコード	R20219	大分類 / 難易度 科目分野	環境情報学専攻 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 前期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	M009501	クラス名	-
担当教員名	木村 智		
履修上の注意、履修条件	建築史に関する基礎的知識を有すること。特に西洋近代建築史の中で触れられる言論や思潮のあり方について学習しますので、テキストに即した柔軟な読解力と解釈力が求められます。また、テキストを読み、考察、解釈したことを発表する機会を設けます。		
教科書	適宜授業内でテキストを設定し、配布する。		
参考文献及び指定図書	『現代建築入門』(ケネス・フランプトン著、中村敏男訳、青土社) 『建築史とは何か』(アンドリュウ・リーチ著、横手義洋訳、中央公論美術出版)		
関連科目	世界建築史、日本建築史、建築計画2、住居論、建築史学特論B		

○基本情報			
授業の目的	建築史学の中でも特に西洋近代建築史という領域に焦点を絞り、高度な知識と技術の習得することを目的とする。また、到達目標としては、建築史学研究における課題の発見、解決方法を数種類身につけることである。建築設計を将来行うことを目標とする学生においては、建築家として求められる設計理念を構築するための基礎となる読解力、解釈力を修得します。		
授業の概要	建築史とは建築制作に関する単なる史実の羅列ではなく、個別の制作実践に通底する鍵概念を用いて、ある種の建築世界を構築することである。本講義では、建築史における主要な主題＝鍵概念をいくつか取りあげて、建築制作におけるそれらの鍵概念の意義を、西洋や日本の各時代の事例を検討しながら考えていく。取り扱う資料としては建築史の通史であり、15回の講義でその内容の考察や解釈を行う。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」	
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	
	(3) アクティブ・ラーニング	「プレゼンテーション」	
地域志向科目	該当しない		
実務経験のある教員による授業科目	該当しない		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	建築史研究において、自らの問題意識を設定できる通史の解釈にあたり、自らの意見を述べる事ができる			30点
【知識・理解】	西洋建築史についての基礎的知識がある			10点
【技能・表現・コミュニケーション】	研究における仮説を提案できる 仮説を文章や図で表現し、理論を深めることができる		50点	
【思考・判断・創造】	自分の関心や問題意識から、研究における仮説を構築することができる			10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
<p><成績評価のポイント> 1. 授業の予習・復習の内容 2. 議論や質疑応答への取組姿勢</p> <p><成績評価のための提出物> 1. パワーポイント等での発表 2. 16週目までに最終レポートの提出</p> <p>[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を特別優れて満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を優れて満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を良く満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。</p>	

○その他	
フィードバックは適宜行います。提出物は確認後返却します。	

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	建築史学特論A (Theory of Architectural History A) 木村 智	授業コード	M009501
学修内容				
1. 授業の概要・ガイダンス 授業全体の概要説明(スケジュールや成績評価の方法など)を行います。また、授業で使用するテキストを配布します。その上で、テキストの著者やまとめられた当時の時代背景について紹介します。(以下、『建築史学特論A テキスト』とする。)				
予習	西洋建築史に関する教科書や既往研究についての調査			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
2. 建築史の分類 1 建築史の分類について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
3. 建築史の分類 2 建築史の分類について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
4. 建築史の分類 3 建築史の分類について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
5. 建築史研究の方法論 1 建築史研究の方法論について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
6. 建築史研究の方法論 2 建築史研究の方法論について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
7. 建築史研究の方法論 3 建築史研究の方法論について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
8. 建築史研究の方法論 4 建築史研究の方法論について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	建築史学特論A (Theory of Architectural History A) 木村 智	授業コード	M009501
学修内容				
9. 建築史の根拠 1 建築史の根拠について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
10. 建築史の根拠 2 建築史の根拠について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
11. 建築史の根拠 3 建築史の根拠について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
12. 建築史の展開 1 建築史の展開について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
13. 建築史の展開 2 建築史の展開について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
14. 建築史の展開 3 建築史の展開について、『建築史学特論A テキスト』を読解を通じて理解していきます。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
15. まとめ これまでの授業内容のまとめを行います。また、期末のレポートを出題します。				
予習	『建築史学特論A テキスト』の該当する部分を読み、関連する事項を調べておく。質問事項を列記しておく。			約2時間
復習	授業内で扱った『建築史学特論A テキスト』の内容を各自で再構成し、自分の意見をまとめる。			約2時間
16. 期末試験 定期考査は行いませんが、授業内容をまとめたレポートをまとめて、期日までに提出してもらいます。				
予習				
復習				